

令和 6 年度

事業報告書
一般会計収支計算書

自 令和 6 年 4 月 1 日

至 令和 7 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 新宮市社会福祉協議会

令和6年度 社会福祉法人新宮市社会福祉協議会事業報告

〔令和6年度重点事業報告〕

1. 新宮市社会福祉協議会中期経営計画の策定

少子高齢化の影響による様々な福祉課題に対応するため、国の地域福祉施策が大きく変化している中で、社協に求められている役割も大きく変化してきています。こういった状況に対応していくためには、市町村社協が果たすべき役割を明確にし、役職員全員が将来ビジョンを共有し取り組んでいく必要があるため、中期経営計画策定委員会を設置し、令和6年12月に「新宮市社会福祉協議会中期経営計画」を策定しました。

2. 第4次新宮市地域福祉活動計画の推進

第4次新宮市地域福祉活動計画（令和6年4月～令和10年3月）に基づき、「人育て」「まち育て」「ネットワーク育て」の3つの柱を意識しながら、各地区の共通の目標である「つながりづくり」「担い手の育成・発掘」のための活動に取り組みました。

3. 介護保険事業の経営改善に向けた取組み

今年度は経営改善に向けた取組みとして介護事務部門を縮小したことにより、ある程度の改善はできましたが、決算では赤字となりました。令和7年度は、訪問介護職員の定年退職等により、収支バランスが改善する見込みとなっていますが、不安定な収入や地域の介護人材不足が大きな問題となっている中、市町村社協が求められている役割や当地域の介護サービスを取り巻く状況等を考慮しながら、中長期的な視点を持ち、今後の介護サービス事業のあり方について結論を出す必要があります。

〔事業別実施報告〕

1. 会の運営と組織基盤の確立

(1) 理事会・評議員会の開催

〔理事会〕

令和6年 6月 6日

- ・ 令和5年度事業報告並びに法人全体収支決算について
- ・ 退任に伴う監事の選定について
- ・ 令和6年度第1回評議員会の招集について
- ・ 中期経営計画策定の進捗状況について

令和6年10月10日

- ・ 会長の職務執行状況の報告について
- ・ 中期経営計画策定の進捗状況について
- ・ 退任に伴う評議員候補者の選定について
- ・ 令和6年度第2回評議員会の招集について

令和7年 1月16日

- ・ 中期経営計画について

令和7年 3月13日

- ・ 会長の職務執行状況の報告について
- ・ 育児、介護休業規程の一部改正について
- ・ 令和7年度事業計画及び予算案について
- ・ 役員等賠償責任保険の更新について
- ・ 令和6年度第3回評議員会の招集について

〔評議員会〕

令和6年 6月25日

- ・ 令和5年度事業報告並びに法人全体収支決算について
- ・ 退任に伴う監事の選任について
- ・ 中期経営計画策定の進捗状況について

令和6年10月22日 ・ 退任に伴う評議員の選任について
 ・ 中期経営計画の進捗状況について

令和7年 3月25日 ・ 中期経営計画について
 ・ 育児・介護休業規程の一部改正について
 ・ 組織体制の変更について
 ・ 令和7年度事業計画及び予算案について

〔監事監査〕

令和6年 5月20日 監事2名により令和5年度事業執行状況並びに計算書類等について監査を実施しました。

(2) 三役会の開催

毎月会長、副会長、事務局職員で理事会の議案や社協の運営全般にわたり協議しました。

(3) 自主財源の確保と会員加入の促進

① 社協会費会員の加入状況

個人会員（1口 500円）	1,323口（前年度 1,345口）
賛助会員（1口 3,000円）	178口（前年度 180口）
特別会員（1口 5,000円）	47口（前年度 44口）
法人会員（1口10,000円）	32口（前年度 37口）
会費収入合計	1,750,500円（前年度 1,802,500円）

② 赤い羽根共同募金配分金収入	1,608,000（前年度 1,491,000円）
歳末たすけあい配分金収入	947,509（前年度 1,350,699円）
新宮いのちの募金配分金	200,000（5年度 397,000円）
MACHIサポート募金配分金	435,000（5年度 494,000円）

(4) 職員研修等の実施

- ・職員研修等で人権について学ぶ機会を設け、職場全体で人権意識の向上に努めました。
3月18日「ヤングケアラーについて」 講師：新宮市人権教育指導員 谷 嗣弘 氏
- ・訪問介護員研修会（毎月）

(5) 広報誌等の発行

社協広報誌「アシスト」を毎月発行（全戸配布）

2. 第4次地域福祉活動計画の推進

(1) 各地区の課題への取組み（担い手不足、地域のつながりの再構築）

各地区の担当職員が「担い手の育成・発掘」「つながりづくり」を目的とした、住民主体によるサロン活動やイベント等の実施に関する支援を行った。王子地区では計画に基づき、地区を4つの小地域に分け、福祉関係者や町内会、学校等の担い手を中心に地域の困りごとや社会資源について話し合い、新たな担い手、社会資源の発掘、困りごと等について情報共有を図るとともに、顔の見える関係性の構築に努めました。

(2) 進捗状況の確認（評価、新たな課題、見直しの必要性等）

取組みを評価するための地区懇談会の開催はできなかったため、令和7年度中に開催し地域住民や関係者の皆様の意見を踏まえ、評価及び計画の変更の必要性等について見直していく。

3. 地域福祉事業の推進

(1) 小地域ネットワークづくり事業の推進

市内を8地区（旧小学校区）に分け、それぞれに地区担当職員を配置し、各地区のサロンや行事、会議等に参加し地域生活課題を把握するとともに、必要に応じて関係者と連携しながら課題解決に向けた支援を実施した。また、生活支援コーディネーターと連携し、住民主体による新たな居場所づくりの支援を行い、個別支援と地域支援の一体的な展開に努めました。

<各種団体等による住民主体のサロン活動の実施状況>

丹鶴地区

- ・住民同士の親睦を深める目的で夕涼みサロン「かき氷交流会」を開催し、今後の見守りにつながる活動を行った。（８月１１日開催）
- ・健康体操サロンの実施。（毎月３回開催）

千穂第１地区

- ・多世代交流を図る目的でかき氷交流会を開催し、今後の見守りにつながる活動を行った。
- ・グラウンドゴルフを神倉小学校で月２回開催。
- ・月１回の健康マージャンを開催。
- ・神倉小学校通学時の朝の見守り活動。（毎月第１月曜日、午前７時半～）
- ・健康運動指導士による介護予防体操教室の開催（年３回実施）
- ・ホウ酸団子作り、貼り絵、雑巾縫い、折り紙サロンの開催。
- ・高田雲取温泉へのお出かけサロン。（グラウンドゴルフ、カラオケの開催）

千穂第２地区

- ・福祉委員主催によるサロンとして、ホウ酸団子作りや介護予防体操を実施。また、今年度は多世代交流を目的とした食堂「ほのぼの食堂」を開催した。
- ・毎日、広角用地グラウンドを活用しグラウンドゴルフを開催している。地区外の方も参加され幅広い交流の場となっている。
- ・地域の居場所「蒟竹笑」では新たな取組みとして月１回モーニングカフェを開始し、多数の地域住民が訪れている。
- ・広角会館では「わがら広角」が地域の幅広い世代の方々と交流することを目的としたイベントを毎月開催している。
- ・コロナの影響により活動を中止していた鴻田サロンが再開した。今後も活動回数も増やしていく予定。

蓬萊地区

- ・ ホウ酸団子作りサロンの実施。
- ・ 福祉委員が手縫い雑巾を作り、蓬萊保育所に寄贈。（１００枚）
- ・ 健康運動指導士による介護予防体操教室の実施。（年３回実施）
- ・ ヤクルト健康教室の開催。
- ・ コロナの影響により中止していた住民主体のサロンを再開した。（２か所）
- ・ 民踊教室を週２回実施。
- ・ 蓬萊会館にて、民生委員児童委員と福祉委員の合同研修会を開催。
- ・ 誰もが気軽に立ち寄れる場として、地域の居場所「ゆったりカフェ」を月２回開催。

王子地区

- ・ 福祉委員主催のサロンを王子会館にて月２回実施。ゆる体操、ホウ酸団子作りと地域住民への配布、高田グリーンランドへのお出かけサロン等を実施。また、さわやか福祉財団助成金を活用してクリスマス会を実施。余興にたづはら保育園園児の歌とダンス、王子ヶ浜小学校長による歌とギターの演奏、ヴァイオリンとキーボードの演奏があり、地域の保育園や学校を巻き込んだ交流の機会となった。
- ・ 「王子おやつサロン」は今年度１回実施。防災クイズにより地域住民の防災意識の向上に努めた。
- ・ 松山隣保館にて「松山サロン」を月２回実施。座談会、布草履作り、手芸等が行われた。今年度はこれまでの参加者に加えて松山団地の住民が参加するようになり、つながりが広がっている。
- ・ 地域の見守りを目的とした「下田地区見守りネットワーク」を住民主体の組織として設置した。
下田隣保館に防災士の久保栄子氏を招き、下田地区の住民や施設職員・利用者を対象に講演会を開催し、今後の見守り活動につなげるための知識の習得やつながりづくりを図った。

三佐木蜂伏地区

- ・ 健康運動指導士による介護予防体操教室の開催。（年２回実施）
- ・ 福祉委員によるサロン、グラウンドゴルフ大会を実施。また、１２月１４日にはクリスマス会を実施。
- ・ 佐野区の居場所「村瀬さん家」を、地域の居宅介護支援事業所（はるかぜ）の職員が中心となって毎月開催した。地域の高齢者や保育園児も訪れるなど多世代交流の場となっている。

高田地区

- ・福祉委員によるお出かけサロンを年1回実施。
- ・ふれあいグラウンドゴルフを月2回実施。常時15人程度が参加し、休憩時にはお茶やお菓子を食べながら住民同士が交流できる居場所となっている。
- ・敬老の日の行事として、高齢者を里会館に招待し手作りの赤飯を提供した。参加できない方には地域住民が見守りを兼ねて自宅訪問し、赤飯を届けた。
- ・福祉委員のサロンとして介護予防体操教室を実施。（年4回）
- ・地域住民の方が野菜市を月1回開催しており、集いの場となっている。
- ・里会館にてお楽しみ交流会を月1回開催。地域住民が食事しながら会話し見守りにもつながっている。
- ・ヴァイオリンとピアノによる演奏会を開催し、他地区のサロン等でも新たなプログラムとして取り入れるきっかけとなった。

熊野川地区

- ・熊野川ふれあいいいきいきサロンを13ヶ所で開催。地域住民同士の交流や見守りの場となっている。
- ・6月より地域の新たな居場所として「じじばば喫茶」が毎月開催されている。

（2）生活支援コーディネーターの受託

【第1層生活支援コーディネーター（市内全域）】

- ・各地区で開催されている交流会やサロン等に積極的に参加することで生活支援コーディネーターの存在を知ってもらう機会になった。また、社協地区担当者と地域に出向き、地域活動に参加することで団体の把握や活動支援を行った。
- ・住民同士の支え合いや介護予防を推進するため、地域住民の居場所作り、社会資源や行政支援の情報提供、人的支援などを提案するとともに、他の地区の好事例を紹介するなど地域に寄り添った支援を継続した。
- ・生活課題（介護、認知症等）についても市地域包支援センターや社協・関係機関と連携し、地域ケア個別会議等への参加や課題解決に向けた支援を行った。

① 地域支え合いフォーラムの開催

「住み慣れた地域でいきいきと暮らしたい」という思いを実現するために、今後地域で必要とされる「支え合

い」について地域住民と一緒に考え、理解を深めることを目的にフォーラムを開催。「支え合い」を広げていくためには地域の横のつながりを深めていくことが重要であることを感じていただき、新たな地域活動にもつながった。

開催日：令和6年10月31日（木）13時30分～15時00分

会場：新宮市福祉センター 集会室

参加人数：111名

内容：地域活動発表 「多世代の気軽な交流場所づくり」発表者：村瀬 晴昌（有限会社あおぞら 代表取締役）
「だれもが自分らしく暮らせるまち」発表者：中野末子・田中みちよ（わがら広角 代表）
「新翔高校 地域・未来づくりプロジェクトチームの取り組みについて」

発表者：宮井 貴浩（和歌山県立新翔高校 校長）

基調講演 地域共生社会を「みんなでつくる」 講師：摂南大学 現代社会学部講師 上野山 裕士氏

② 地域支え合い勉強会の開催

地域住民を対象に、支え合いの必要性についてゲーム等を活用しながら分かりやすく勉強会を開催した。また、地区担当職員と協力し、地域課題の把握及び課題解決に向けた住民同士の支え合い活動を支援できるよう、交流会（話し合いの場）を開催した。

③ その他の取り組み

- ・昨年度に引き続き蓬莱地区の居場所「ゆったりカフェ」（認知症カフェ）を月2回開催。蓬莱地区の居場所として参加者の生きがいづくりや地域住民同士のつながりの場となっている。
- ・令和5年10月に設置された佐野区の居場所「村瀬さん家」を月1回開催。近隣住民が「ちょっと一息できる場所」として住民同士（多世代交流）のコミュニティ作りの場となっている。
- ・千穂第2地区の「わがら広角」では、昨年に引き続き「蒟竹笑モーニングカフェ」を毎月第3日曜日に開催し、地域の憩いの場所となっている。「わがら広角会館開放日」も毎月第4日曜日に開催し、多世代が参加できるメニューを企画することで子育て世代の参加も増えている。
- ・下田地区では、住民主体による新しい活動として「下田地域見守りネットワーク」が発足し、下田地域の3町内会が集まり、常時見守りが必要な1人暮らし高齢者、高齢夫婦世帯の見守り活動を行っている。また、日頃から地域の横のつながりをつくるために、ネットワークメンバーが中心となって交流会や研修会、生きがいづくり教室等を実施している。
- ・「チームくまのがわ」では、6月より地域の居場所として「じじばば喫茶」をオープンし、熊野川開発セ

ンターにて毎月開催し、毎回約５０～６０名の地域住民が訪れている。引きこもりがちで孤立している方や認知症等の方も参加されており、スタッフは安心して過ごせる居場所となるように心掛けている。来年度は、居場所機能の充実を図るため「ときどき食堂」の開催も計画している。

【第２層生活支援コーディネーター（高田・熊野川）】

高田・熊野川地域の高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して支援体制の充実・強化を図ることを目的として取り組んだ。

- ・熊野川地区で開催されているサロンについては、各地区１３カ所を毎月訪問し、居場所やつながりづくりの場として支援した。高齢化が高い地域であることから、熊野川地域包括支援センターと連携を図り、介護予防事業への協力や生活課題等のニーズ把握に努めた。また、必要に応じて民生委員児童委員、チームくまのがわの定例会に参加し課題把握や関係づくりに努めた。
- ・高田地区では住民主体による地域活動が活発に行われており、グラウンドゴルフ大会やお出かけ・買物サロン、福祉委員定例会、野菜市や敬老会、住民主体の組織「高田区」（旧村づくりの会）の活動に参加、協力しながら、地域に存在する様々な主体との関係づくりに努めた。また、地域課題として挙げられた、災害時の初動期対応については、給水バックの利用方法について区の合同防災訓練で実施するとともに、一級建築士の防災士を招いて、講演会や地区の危険個所の確認、改善案を検討することができた。地域住民や様々な主体と協働で実施したことにより、防災意識の向上や支え合いのネットワークを広げるきっかけとなった。

（３）福祉委員活動の推進

①登録者数 ３１５名（令和６年３月末現在） 前年度 ３２３名（令和５年３月末現在）

②正副委員長会議の開催

地区福祉委員会正副委員長会議 年６回開催

③見守り活動の推進

各地区において、サロン活動や赤い羽根共同募金助成金の活用により見守り活動を実施した。

④研修会の開催

- ・令和６年 ７月 ９日 ニュースポーツ研修会

和歌山県レクリエーション協会 林 義人 氏
和歌山県スポーツ振興財団 高井 直美 氏

⑤地区福祉委員会ごとに定例会及び研修会を開催

各地区の状況に応じて定例会を開催した。

⑥ふれあい交流事業への協力

各地区の福祉委員による見守り活動の充実や高齢者の介護予防を目的として開催した。

丹鶴地区

3月 2日 ふれあい交流会実行委員会（福祉委員・民生委員児童委員協議会・公民分館・社協）主催による交流会を丹鶴ホールにて開催。正明保育園園児による楽器演奏・合唱、コーラル柳の合奏、フラハプナによるフラダンス、Team雅龍によるよさこいを実施。参加者約160名

千穂第1地区

11月 9日 ご近所との交流が減少する中、地域住民の交流や生きがいづくり、引きこもり防止等を目的として、交流会を開催。潮岬観光タワーで食事し、ゲームや餅まきで交流を図った。参加者48名

千穂第2地区

2月 14日 地域住民同士の交流を図る目的として、ワークランドそらにて食事会と音楽療法、ビンゴゲームを実施。参加者46名

蓬萊地区

2月 15日 蓬萊体育館にてふれあい交流会を開催。今年は鑑賞型で行い、マジックサークル青い鳥さんのマジックショーや、新宮高校の生徒3名によるダンス、バルーンアート、アコーディオン演奏を行った。子供から高齢者までの住民が集まり多世代交流の場となった。参加者80名

王子地区

5月 24日 地域住民を招き高田グリーンランドで開催。温泉入浴や紅葉散策をしたりと、ゆったりとした交流が図られた。昼食・抽選会あり。参加者40名

10月 18日 地域住民を招き、今年度は初めて城南中学校体育館でレクリエーションの道具を活用した景品付きのゲーム大会を開催。ゲームの後は住民と学生がグループに分かれて交流し、最後に学生による校歌斉唱のプレゼントもあり、多世代交流の機会となった。

参加者：地域住民 35名・城南中学校1年生 50名

三佐木蜂伏地区

11月9日 羽山氏による踊りとゲーム、ワークランドそらによる音楽療法、社協職員による防災講話等を実施。参加者55名

高田地区

10月20日 高田・相賀区の70歳以上の高齢者が集い、歌や演奏、福引抽選会などを通して交流を図った。また、高田小・中学校の生徒による合唱やレクリエーション、笑いヨガなど、地域の関係機関も参加する地域密着型のふれあい交流会を実施し、見守り活動も兼ねて福祉委員が送迎を行った。参加者54名

熊野川地区

11月21日 区長連絡協議会・熊野川公民分館・熊野川地区民生委員児童委員協議会・熊野川地区福祉委員会・ゆうゆうクラブ熊野川支部の5団体共催によるふれあい交流事業（グラウンドゴルフ大会）を実施。参加者141名

3月13日 65歳以上の高齢者を対象に熊野川ふれあいお楽しみ会を実施し、歌や踊り、マジック、アルトサックス&ピアノを楽しんだ。参加者186名

（4）福祉のまちづくり事業の実施

①障がい児激励事業

1月26日 新宮市障害児者父母の会との共催により「新春お楽しみ会」を開催しました。新型コロナウイルスの5類移行に伴い、今年度は弁当や軽食などの飲食を楽しみながらマジックショー等を鑑賞した。参加人数 約65名

②「愛の日」バザー（11月20日）

新宮市婦人連絡協議会と共催で開催。売上金 135,840円

4. ボランティア活動事業の推進

（1）ボランティア・市民活動センター事業

活動の異なる様々な団体が協働して誰もが住みよいまちづくりを目指すとともに、登録している団体・個人がボランティア市民活動センターに常駐し一般市民対象の行事を開催するなど、ボランティア活動への参加促

進を図った。登録数 86 団体、個人 29 名（5 年度 84 団体・個人 26 名）

① 運営委員会の開催

10 名の運営委員及び監事 2 名により毎月開催（12 回）

② 広報・啓発

・社協広報誌「アシスト」にコーナーを開設。また、参加団体や社協役員、評議員に会報「結夢だより」を送る。

・掲示板を利用し、参加団体またはセンターの催しなどの情報提供とともに SNS にて情報発信。

③ 交流と連携（ネットワーク）の促進

5 月 23 日 総会

11 月 6 日 吹き矢交流会 スポーツウェルネス紀の国くまの支部

④ 勉強会、研修会の開催

7 月 4 日 「出張！減災教室」 避難所開設ゲームを実施。

⑤ 「しんぐう元気フェスタ」の開催

市内の関係機関とボランティア・市民活動センターが協働で、市民の方々がボランティア活動に参加するきっかけづくりや地域の活性化を目的として開催。多彩なイベントステージや体験ブース、飲食ブースなどを設け、地域住民、ボランティア団体、関係機関等が交流できる貴重な機会となっている。

来場者数 約 200 名

⑥ カルチャーサロンの開催

登録団体の協力により、8 サロンを計 106 回開催。（5 年度 8 サロン 139 回）

今年度は、絵手紙教室・ゆる体操・マジック教室・ちぎり絵教室・折形教室・布ぞうり作り教室・盆点前教室・着物リフォーム教室を開催。

（2）ボランティアコーディネート事業

① ボランティアの育成

〔研修会等の開催〕

・ボランティア養成講座の開催

小学生を対象とした「手話教室」を実施。受講者 9 名
〔福祉教育の推進〕

・福祉教育担当者会議の開催 6 月 27 日

市内小・中・高校の福祉教育担当者に社協の事業説明や福祉体験講座の案内等を行った。

・福祉体験講座の開催

点字・車いす・高齢者疑似体験講座などの出張講座を開催。

小学校 2 校、高校 1 校、新宮市医師会准看護学院 1 校 延べ 6 回開催（5 年度 5 校 8 回）

・ボランティアスクールの開催 8 月 1 日から 6 日まで（土日を除く 4 日間）

コロナ禍以前の規模に戻し、中・高校生 21 名参加

②ボランティア活動の支援

相談、活動支援

（朗読サービス）

毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」をカセットテープに吹き込み、声の広報として発送。

利用者 3 名 ボランティア やすらぎグループ「声」

（点訳サービス）

点字ボランティア「てんとう虫」により、毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」を点訳し発送。

利用者 5 名

5. 要援護者支援事業の推進

（1）福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な高齢者、知的障がい者・精神障がい者等が地域で安心して自立した生活が送れるよう、福祉サービスの利用手続きや公共料金等の支払い、通帳や証書の預かりなどの支援を行った。また、専門員研修会や生活支援員研修会、利用者のケース会議等へ参加し、サービスの向上を図った。

法人後見事業についての実績はなかったが、成年後見制度利用促進協議会の研修会に参加し法人後見制度に関する知識を深めた。また、社会福祉協議会の機能を活用し、地域住民や福祉・法律の関係機関と連携し、ご本人を中心とした支援を展開した。

契約件数 22 件（高齢者 9 名、知的障がい者 9 名、精神障がい者 2 名、身体障がい者 2 名）※ 3 月 31 日現在

(令和5年度契約件数 19件)

(2) 生活困窮者支援制度への協力

市福祉課の自立相談支援員と連携し、生活が困窮している方に対して生活再建に向けての相談や生活資金の貸付を実施した。

(3) 福祉車両貸出事業 貸出件数33件(5年度58件)

(4) 車椅子貸出事業 貸出件数69件(5年度61件)

(5) 紙おむつ半額助成事業 新宮市から紙おむつの給付を受けている方で社協会員を対象に実施。
利用者数4名(5年度10名)

(6) 貸付事業の実施

・生活福祉資金貸付事業(県社協受託事業)

低所得者世帯の生活の安定と経済的自立を図るために和歌山県社会福祉協議会からの受託事業として実施。

令和5年1月より一部を除く方の償還が開始されており、貸付後も困窮されている方の状況把握や対象者への免除申請の案内やサポート、関係機関との連携等によるフォローアップ支援を実施した。

◎本則による貸付 0件 0円(5年度0件)

◎特例貸付決定件数 731件 256,221,000円(令和2年3月25日～令和4年9月30日)

◎特例貸付免除決定件数 440件 161,073,780円(令和4～6年度累計)

・緊急小口資金貸付事業

10万円を限度に緊急を要する低所得者に貸付を行った。

貸付件数 12件 1,085,306円を貸付(5年度 10件 447,250円)

6. 災害時対応事業の推進

(1) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

12月22日、紀伊半島沖での巨大地震発生による災害を想定し、災害ボランティアセンターの設置運営、被災地区(王子地区を想定)への支援活動体験、被災状況の把握訓練、ボランティア受入れなどの訓練を実施した。今回の訓練では、センター運営の効率化を図るためにICTの導入が主流となりつつあることを踏まえ、運営システム(キントーン)を導入し、事前に職員を対象としたシステム使用についての勉強会を実施するなど、より実践に近い状況を想定した訓練を実施した。

(2) ボランティア・市民活動センターとの連携

災害ボランティアセンター設置運営訓練には、ボランティア・市民活動センターに登録されている団体や個人の方が参加し、炊き出し訓練や運営スタッフとして積極的に協力いただいた。

(3) 和歌山県社会福祉協議会（和歌山県災害ボランティアセンター）との連携

2月23日、県社協主催による広域・同時多発災害対応訓練（和歌山市、紀の川市、海南市）に職員3名が参加。県内複数市町村が被災した場合でも、県内の関係者が連携して地域を越えた支援ができるよう、訓練を通して相互支援の関係づくりや基本ルールを共有した。

(4) 県下市町村社会福祉協議会における災害時の相互支援

平成24年1月30日に締結された「社会福祉協議会における災害時の相互支援協定」によって県内の市町村社協と災害時の相互支援について取り決めています。また、災害時の県内社協相互支援活動積立金として毎年拠金しています。

7. 善意銀行の運営

176,059円(10件)の寄付金を受入れました。

(前年度 178,488円 10件)

8. 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員会の運営

・第三者委員による検討事案はありませんでした。

9. 福祉関係団体との連携

(1) 民生委員児童委員協議会との連携

◎日赤活動資金募集・共同募金運動への協力依頼（10月20日に行われた街頭募金運動に参加協力）

◎生活福祉資金貸付審査及び償還調査の依頼（貸付審査0件）

(2) ゆうゆうクラブ（老人クラブ連合会）との連携

◎老人クラブ活性化の推進

クラブ活性化のため、老人が生きがいをもって活動できるよう連携した。

◎女性部活動の推進

ゆうゆうクラブ会員（老人クラブ連合会）の多くが女性のため、女性部活動を充実させることで新規会員の獲得ができるよう連携した。

- ・女性部交流会：雲取温泉（６月１４日 高田グリーンランド 参加者６０名）
- ・栄養講習会：「お口の健康と栄養に関する講習会」（１月２７日 新宮市役所別館 参加者６０名）
- ・健康づくり教室：「シニアリトミック」（２月１４日 福祉センター 参加者４５名）

◎生きがいと創造の事業の推進

健康、生きがいづくり事業として「生きがい教室」「老人菜園」の実施協力。

- ・生きがい教室 １７教室 受講者 ３８５名
- ・老人菜園 ２カ所 利用者 ６６名
- ・愛の日ゆうゆうクラブ芸能大会への協力 １０月５日（丹鶴ホール）参加者約２４０名

（３）赤十字事業への協力

- ・日赤活動資金募集 お願い額２，９６０，０００円に対し、実績額２，５０２，０７７円
（前年度実績額 ２，６８５，２４４円）

（４）共同募金運動への協力

- ・赤い羽根共同募金運動

募金が地域の活動に活かされ自分たちのまちを良くするために３つの募金活動「ささえ愛募金」「ＭＡＣＨＩサポート募金」「新宮いのちの募金」を実施。

目標額３，０１２，０００円に対し、実績額３，０８３，９２３円（前年度実績額 ３，１７０，５５５円）

- ・歳末たすけあい運動 １，３２７，５７２円の募金があり９４７，５０９円を配分
（前年度１，３６０，１３２円の募金があり、１，３５０，６９９円を配分）

【配分内訳】

町内会（１町内会）	４４，０００円
ボランティア市民活動団体（１１団体）	４６５，０００円
事務費	７２，０１０円
障がい児激励事業	１７０，０００円
フードパントリー事業	１９６，４９９円
合 計	９４７，５０９円

・フードパントリー事業

新型コロナウイルス感染症の５類移行後も、生活再建が困難な方や物価の高騰等で家計負担が大きくなっている生活困窮者世帯に対して、「歳末たすけあい運動」配分助成により食料等の提供及び生活相談の機会をつくり、各世帯の不安軽減を図りました。

実施期間：２月９日～２月１４日

受渡世帯：４７世帯

１０．指定管理者制度（市受託事業）の推進

（１）福祉センター管理運営

福祉センター貸館業務

高齢者の生きがい教室や研修会等への貸館業務を実施。

延べ利用者２２，１００名（前年度 ２４，６１８名）

高齢者入浴サービスの実施

福祉センターの浴室を毎週開放（火曜日女性、金曜日男性）

延べ利用者 ６８１名

（２）中央児童館の運営

子どもの健やかな育成を図るために、日々の遊びを通しての個別指導の他、集団でのクラブ活動、創作や季節行事、野外での自然体験活動、異世代間の交流事業など、様々な遊びを通して健全に発達していくよう

支援した。

① 運営委員会の開催（運営委員 7 名）

7 月 1 0 日 令和 5 年度活動報告並びに令和 6 年度事業計画他について承認（7 名出席）

② 利用状況

登録人員 4 1 6 名 年間延べ利用者数 1 2, 8 6 3 名 開館日数 2 3 9 日 1 日平均 5 4 名

（令和 5 年度 3 8 2 名 年間延べ利用者数 1 1, 3 5 2 名 開館日数 2 3 6 日 1 日平均 4 8 名）

③ 主な事業内容（ ）は参加人数

◎ クラブ活動を通して集団的援助活動

週 1 回実施：スポーツ火曜日クラス（2 3 名）・スポーツ金曜日クラス（2 4 名）・卓球クラブ（6 名）
パッチワーク（1 1 名）

月 1 回実施：わくわくクラブ（年長児 1 2 名）・にこにこクラブ（1 年生 1 4 名） 計 6 クラブ

◎ ジュニアボランティアの育成

ジュニアボランティアクラブ（4 ～ 6 年生対象 月 1 回の定例会と児童館行事の手伝い）

◎ 運動遊びを通じた体力づくりの推進

スポーツクラブ・ドッジボール等

◎ 未就園児の親子を対象にした子育て支援活動の実施

親子であそぼうクラブ（月 2 回 7 組 計 2 1 回実施）

◎ 市児童館や子育て関係機関との連携

市子ども子育て会議

市子育てネットワーク会議

市児童館会議（3 ヶ月毎に年 4 回開催）

児童館合同運動会 5 0 名参加

◎ 季節行事の実施

・ジャンボこいのぼり制作（1 2 名）・おにぎり作って丹鶴城へいこう！（1 7 名）

・七夕のつどい（2 9 名）・ハロウィンクッキー作り（3 6 名）・アドベントカレンダー作り（3 4 名）

- ・クリスマスお楽しみ会（４６名）
- ・年末大掃除（３２名）
- ・かるた大会（１０名）
- ・こままし大会（５名）
- ・もちつき大会（２２名）
- ・節分をたのしもう（２０名）
- ・ひなまつり（２２名）

◎創作活動や体験活動

- ・グラウンドゴルフをしよう（１３名）
- ・プラバンキーホルダーづくり（４９名）
- ・ミニオリンピック（２２名）
- ・スライムづくり（１８名）
- ・館内デイキャンプ（１３名）
- ・ゆうゆうクラブ女性部との交流おはぎづくり（１６名）
- ・つくってあそぼう（計２回 延べ３０名）
- ・夏休みお楽しみかき氷体験

◎その他の事業

- ・春のおたのしみひろば（５３名）
- ・フロアホッケーをしよう（１０名）
- ・東牟婁生活支援センターわかば園と交流「一緒に支えあうまちづくり」（１１名）
- ・おはなし会（計５回 ９９名）
- ・こどもまつり（５７５名 スタッフ含む）
- ・遊び大作戦（３２名）
- ・わたあめプレゼント（計３回 延べ１１５名）
- ・ドッジビー大会（３６名）
- ・春休みハイキング（３５名）

◎保護者対象事業

保護者対象人権学習と春のファブリックリースづくり（大人８名、こども４名）

１１．介護保険事業の運営

内は前年度実績 ※少数点以下は四捨五入

（１）居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

要介護者や要支援者の方の相談や必要なサービスを受けられるようにケアプランの作成や市・サービス事業者・施設等との連絡調整を行った。複雑化、複合化した課題を抱えているケースについては、法人内の関係部署と連携しながら、社協の強みを活かしたケアマネジメントを実施した。

また、市から避難行動要支援者個別支援計画書の作成にかかる業務を受託し、災害時に一人で避難することができないおそれのある方が住み慣れた地域で安心して暮らすことのできるよう、福祉専門職として参画した。

介護ケアプラン作成件数	5 8 2 件（月平均 4 9 件）	4 8 8 件（月平均 4 1 件）
介護予防支援計画	3 0 件（月平均 3 件）	5 5 件（月平均 5 件）
介護予防ケアマネジメント計画	1 2 件（月平均 1 件）	1 2 件（月平均 1 件）
個別支援計画の作成	1 6 件（年）	

（２）訪問介護事業（ホームヘルプサービス事業）

経営改善の取組みとして、毎月常勤ヘルパー会議を開催し、収支状況の把握や経営改善に向けた数値目標を共有するとともに、新規利用者を紹介してもらうために居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等に営業を行った。

また、７月１日からは市より「子育て世帯訪問支援事業」を受託し、家事・育児等に対して不安や負担を抱える子育て家庭、妊娠婦、ヤングケアラー等がいる家庭の居宅を訪問し、不安や悩みを傾聴するとともに家事の支援を行った。

・介護保険訪問介護（要介護１～５）

延べ利用者 1 8 , 9 6 0 名（月平均 1 , 5 8 0 名） 2 3 , 2 9 7 名（月平均 1 , 9 4 1 名）

訪問時間 1 8 , 8 5 4 時間（月平均 1 , 5 7 1 時間） 2 3 , 1 6 2 時間（月平均 1 , 9 3 0 時間）

・総合事業訪問型サービス（要支援１・２）

延べ利用者数 4 , 4 0 7 名（月平均 3 6 7 名） 5 , 4 2 2 名（月平均 4 5 2 名）

訪問時間 4 , 4 6 8 時間（月平均 3 7 2 時間） 5 , 4 4 9 時間（月平均 4 5 4 時間）

・障害者総合支援居宅介護事業（障害児者へのホームヘルプサービス）

延べ利用者数 7 , 3 1 9 名（月平均 6 1 0 名） 8 , 2 9 1 名（月平均 6 9 1 名）

訪問時間 7 , 4 8 0 時間（月平均 6 2 3 時間） 8 , 1 8 2 時間（月平均 6 8 2 時間）

・にこにこサービス（介護保険外自費サービス）

延べ利用者数 2 3 名（月平均 2 名） 3 3 名（月平均 3 名）

訪問時間 2 6 時間（月平均 2 時間） 4 8 時間（月平均 4 時間）

・子育て世帯訪問支援事業（市受託事業）

延べ利用者数 2 名（年）

訪問時間 1 6 時間（年）

(3) 熊野川地域包括支援センター（市受託事業）

総合相談や見守り活動、介護予防教室や住民からの情報提供等から把握された地域課題の解決に向けて、生活支援コーディネーターやチームくまのがわ（協議体）、地域住民との連携を図った。公的な社会資源が不足する中でも「住み慣れた地域でいつまでも楽しく暮らす」ことを目標に、行政や社協、地域住民と協力しながら、「居場所づくり」や「生きがいづくりの場」など、新たな社会資源の開発に繋がる活動に努めた。

- ・ 総合相談件数 221 件（月平均 18 件） 225 件（月平均 19 件）
- ・ 介護予防支援計画 69 件（月平均 6 件） 74 件（月平均 6 件）
- ・ 介護予防ケアマネジメント計画 64 件（月平均 5 件） 82 件（月平均 7 件）
- ・ 介護予防教室開催回数 32 回 22 回
- 参加人数 219 名 159 名